思うままに

熊原晶子

×××さんのご質問にお答えします。

ロシア行ですが、今は、ロシアに行く飛行機が経済制裁で限られています。ドバイ経由でいくエミレーツ航空、アブダビ経由エチハド航空、イスタンブール経由ターキッシュエアラインなど。フィンランドのヘルシンキからサンクト［ペテルブルグ］に行くロシア鉄道がありましたが、今は通っていません。アエロフロートだとモスクワまで九時間で行きますが、今は、二日間ぐらいです。（本当に、早く戦争が終わって欲しいです(涙)）

サンクトは、古い建物がかなり残っていて、「罪と罰」のソフィや殺された金貸し婆さんのモデルになった建物が今でも残っています。建物の住所を表示する円形の表示板も、当時のものを使っています。

ドストエフスキーは、小説で、場所とかかなり正確に書いているみたいですね。

私は、ロマノフ家のファンなので、最後の皇帝ニコライ二世が住んでいた、サンクトの郊外にあるアレクサンドロスキー宮殿に行きたいです。

ところで、彼は、若い頃、日本に訪れ、大津で、侍に襲われ斬られました。彼の遺骨が発見されたとき、その時着ていたルバーシカに付いていた血液でＤＮＡ鑑定が行なわれたんですよ。日本に居たとき、なんと彼は、長崎で腕にタトゥーを入れました！

本当に、ロシアに行きたいです。

この戦争が、落ち着いて、ロシアに行けるようになったら、一週間から一〇日間ぐらい、〇〇〇さんとサンクトに行きたいと思っています。サンクトは、古びた町並みがそのまま残っていますよ。なにか町全体が、帝政時代のような感じです。

×××さんの言われるとおり、日本では、ウクライナで起こった、また、起こっていることをウクライナ側の報道はしますが、ロシア側の報道は、殆どしません。

何故このようなことが起こったかという原因についても、殆ど触れません。

ウクライナは、ウクライナ人だけが住んでいる国ではなくて、ロシア人やユダヤ人など文化や習慣がちがう多民族で形成されています。

また、歴史的にも、この地域は、ロシアの領土であった時期が長い地域が多いです(例えば、クリミヤは、一七〇〇年代にエカチェリーナ二世がオスマントルコと戦いロシア領土に併合など)。

現在のウクライナは、第二次世界大戦後にポーランドやルーマニア等の領土を併合し、形成されました。

現在、ロシアとウクライナは、戦争しているため、ロシアだけが攻撃しているのではなく、ウクライナも攻撃し、双方攻撃し合い、双方被害を受けています。

私見ですが、戦争を解決するためには、今起こっている状況を正しく認識することが、必要だと思います。そのためには、双方の言い分を聞かなければならないと思うのです。現在の日本で報道されているようにウクライナの情報ばかりではなく、ロシアの情報も確認しなければならないのではないかと。

ウクライナは、ウクライナ人男性は国外に出ることを禁止し、前線で戦っている人も多いと思います。これはロシアの報道ですが、ロシア軍に負け、撤退していいかと本部に聞いている通信を傍受していますが、殆どの場合、許可は下りず、最後まで［ロシア軍に対して］戦えと言われており、本当にかわいそうだ、とコメントしています。

この戦争が、他国に利用されるのでなく、一日もはやく解決して欲しいと思います。

長い間、考えていました。

二〇二二年一二月のドイツのメルケル前首相のインタビューをお送りいたします。https://eadaily.com/ru/news/2022/12/08/merkel-da-my-obmanuli-putina-s-minskimi-soglasheniyami-chtoby-vyigrat-vremya

×××さんは、どう考えられますか？

これは、昨年の一二月上旬に、ドイツの全国新聞ディー・ツアイト社がメルケルにしたインタビュー記事です。

二〇一四年に、ドイツ・フランス・ロシアが保証人となり、ウクライナ東部の紛争を解決するために、ウクライナとウクライナ東部（現ドネツク共和国・ルガンスク共和国など）とミンスク合意を結びました。

合意した内容は、武力的な攻撃を停止し、ウクライナ東部の自治を認めることでしたが、実際は、ウクライナからの武力攻撃は収まることはありませんでした。

メルケルは、インタビューで、最初からウクライナ東部への攻撃を停止するつもりはなく、当時ウクライナの軍事力がロシアに比べ、非常に劣っていたため、軍事を強化するための時間稼ぎのためだったと言いました。

ロシアは、すぐにこのインタビューに反応し、念のため、フランスのオランド前首相に確認したところ、メルケルが言っている通りだと述べたそうです。

つまり、二〇一四年の時点から、ウクライナの問題を解決するのではなく、ロシアとの戦争を準備していたということです。逆にロシアは、外交により問題を解決しようと八年間も交渉を続けました。この間ずっとウクライナ東部は、攻撃が止むことはなかったのです。私の考えですが、ロシアが、［二〇二二年二月二四日］軍隊を送ったことは、良いとは言えませんが、このような経緯があるということも無視できないと思います。

話は、全然かわりますが、二〇一九年にウラジオストックで Тоидзуми Ёнэко さんが書いた〈Сирень и Война〉を、途中まで読んで、中断していましたが、また読み始めました。とても面白いですよ。［日本語原典は戸泉米子著『リラの花と戦争』福井新聞社、二〇〇二年刊］

しかし、今の日本でこのようなことを言うと、バッシングがひどくて、もう言いたくありません。

侵攻が起こったとき、仕事を貰っていた日本の会社から、ロシアの行動について説明を求められました。私は、日本の報道とロシアの報道を調べ、報告しましたが、ロシアの言い分を言ったところ、「ふざけるな！」レベルの反論をうけました。私の親戚からは、日本でそんなことを言ってもどうせ理解されないから、今後ロシアのことを他人に言ったりしないように、もうロシアとの関係を絶つようにと言われています。

「非国民」レベルですね。 日本で、今のロシアを語ることは、タブーなんだと何度も思い知らされました。本当に、今、日本で行なわれているロシアに関する報道は、殆ど「洗脳」に近い。

大学時代、ロシア語の授業初日に、X先生が、「あなたたちは、ロシア語を勉強することを選びました。まだ、その重要性を、君達は、理解していませんが、重要な選択をしました」と言われました。

私は、ロシアと長く関わりを持ちましたが、今まで何度も、この言葉を思い出しました。日本では、トルストイもドストエフスキーも、チャイコフスキー、ラフマニノフなど、ロシアの芸術や文化が愛されています。これらは、今のロシアでは、消滅してしまったのでしょうか？ 彼らは、今のロシアと全く関係ない存在なのでしょうか？

いろんなことで打ちのめされて、夕方暗いモスクワの地下道をとぼとぼ歩いていると、賽銭稼ぎのバイオリンニストが弾き語りで、チャイコフスキーを弾いています。そのメロディーを聞いていると、なんか涙が出てきそうになります。やっぱり、チャイコフスキーもドストエフスキーも、今のロシア人の生活のなかで生きているんだなあって。彼らを生み出したロシア。そして今も存在しているロシア。

私は、そう思うんです。